

## DVD 上映による患者・家族への啓蒙活動

医療法人財団天翁会 新天本病院

○ 言語聴覚士 <sup>ワタナベ</sup> 渡邊 <sup>ユウ</sup> 優

理学療法士 半田 悦子

### 【はじめに】

外来リハビリテーションでは、高次脳機能障害・失語症などを説明する時間が不足し、十分に情報を伝えられないことがある。今回、外来患者及び家族への各種症状の啓蒙を目的にDVDを放映し、その効果の把握のため、アンケートを実施した。

### 【DVDの放映方法】

内容：失語症会話パートナー入門、食ベリハ体操、高次脳機能障害のリハビリテーション

方法：外来リハビリ待合にて、終日繰り返し放映、内容は1週毎に変更

### 【アンケート結果】

対象：外来患者・家族 50人、回収 44枚（88%） 回答方法：選択・記述式

項目および結果：対象者 患者 45% 家族 55%

①DVDを見たことがある 84%

②失語症について 知っている 72%、DVDを通して知った 13%

③高次脳機能障害について知っている 65% DVDを通して知った 15%

④嚥下体操について 知っている 44%、DVDを通して知った 28%

⑤DVDは役に立った 94% 内容：疾患についての知識、体操、失語症の方への接し方など

⑥DVDの内容を実施した 32% 実施したい 49% 内容：失語症や高次脳機能障害の方との会話の仕方、嚥下体操など

⑦知りたい情報：リハビリや福祉機器などの最新情報、自主トレ方法、体験談など

### 【考察】

①啓蒙の効果：嚥下体操については「DVDにより知った」が約3割であった。一方、失語症・高次脳機能障害については「既知っている」が半数を超え、「DVDにより知った」は1割程度であった。少数ではあるものの、患者・家族へ新たに情報を伝えることができた。

②啓蒙できた内容と要因：役に立ったとされる内容としては、知識のみでなく対応方法についても多く、また実際に行ったという意見も得られた。DVDは繰り返し放映されているため、自然に目に入りやすく、また映像のため実際に見て理解できるといったことから、知識のみでなく具体的な対応方法についても伝わりやすかったと考えられる。

③患者や家族が求めているもの：最新情報の他に体験談を聞きたいとの意見もあり、同じような境遇の方の情報、繋がりを求めていることがわかった。またDVD放映方法や、リハビリ室の環境に対する意見も挙がり、今後改善すべき点を知ることができた。

### 【課題】

今後の課題として、①患者・家族のニーズに合った情報提供の追加をすること、②DVD放映により患者や家族に変化が見られたかを担当スタッフから情報収集をし、③実際の臨床に繋げることができたのかを確認していくことなどが挙げられる。